

<10月定例研究会の報告>

平成30年10月20日(土)、当研究所で定例研究会を行いました。

研究会のテーマは「数の基礎学習」です。

午後5時から研究授業、5時30分から研究協議を行いました。

研究授業者:高橋敦子(つばき教育研究所スタッフ)

対象児 :特別支援学校 小学5年生

テーマ :数の基礎学習

学習内容 :「数える学習」・「たしかめ板を用いる『同じ』の学習」

I、指導経過

- ・2015年6月から週1回の学習を開始した。

指導開始時、学習開始前や途中で離席し、学校の友達の名前や朝の会の様子を言いながら歩き回ることが多かった。何をするのか分からず、不安に感じているのではないかと考え、子どもから見える所に教材を置いた。また、好きな絵本を見てから学習に入った。その結果、離席が減り、次第に学習態勢ができてきた。

現在までの指導経過は以下の通りである。

1、基礎学習(2015年6月～2016年5月)

- ・同じの概念形成の学習
- ・形の弁別の学習
- ・未測定の学習
- ・空間概念の形成の学習
- ・操作性の学習

2、文字学習(2016年5月～)


- ・清音の名詞の単語構成・・・2016年5月～2017年9月
- ・濁音、半濁音の名詞の単語構成・・・2017年10月～2018年6月
- ・動詞の概念形成・・・2017年9月～
- ・拗音の名詞の単語構成・・・2018年7月～


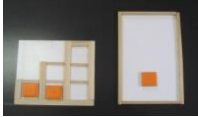

3、数の学習(2017年10月～)

- ・数唱、数字の読み書き・・・2017年10月～
現在は1から50までの数を唱えること、1から50までの数字を書くことができるようになった。
- ・数える学習・・・2018年5月～
- ・「同じの概念形成(たしかめ板を用いる「同じ」の学習)」・・・2018年9月～

II、本時の学習

1、学習課題・ねらい・教材

学習課題	ねらい	教材
(1) 数字カードを見て、同じ数のタイルを並べる。 	・数字カードを見て、カードと同じ数のタイルを取って、左から並べることができる。	・数字の数系列板 ・オレンジ色のタイル(2.4cm×2.4cm) ・呈示皿(15cm×21cm) ・呈示紙(11cm×36cm)

<p>(2) タイルに触れないで数え、数えたタイルと同じ数の数字カードを取る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイルにふれないで指さしながら、一緒に数詞を声に出して数えることができる。 ・数えたタイルと同じ数の数字カードを取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字の数系列板 ・オレンジ色のタイル(2.4cm × 2.4cm) ・呈示紙(11cm × 25cm)
<p>(3) 3までのタイルの数系列板を使って数える。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・左の列のマスに1個、真ん中の列のマス目に2個、右の列のマス目に3個、タイルを数えながら下から置くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3までのタイルの数系列板 ・オレンジ色のタイル(2.4cm × 2.4cm) ・呈示皿(15cm × 21cm)
<p>(4) たしかめ板を用いる「同じ」の学習 課題の数は「1」、「2」、「3」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・左辺の見本の数のタイルと同じ数のタイルを置いて、左辺と右辺のタイルの数を同じにすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5までのたしかめ板 タイルとタイルの間に仕切りがあるもの ・オレンジ色のタイル(子ども用)と 水色のタイル(指導者用) (2.4cm × 2.4cm) ・呈示皿(15cm × 21cm)

Ⅲ、展開

学習項目	学習内容	留意点
1、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめます」と一緒に言う。 	
<p>2、数字カードを見て、同じ数のタイルを並べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の数:「6」、「5」、「7」 ①1から順番に数えながら、数字の数系列板から数字カードを一緒に取る。 ②数字カードより、一個多いタイルが置いてある呈示皿から数字カードと同じ数のタイルを取って、呈示紙に左から数えながら置く。 ③数字カードとタイルの数が「同じ」と言う。 ・課題の数:「8」、「9」 ①1から順番に数えながら、数字の数系列板から数字カードを一緒に取る。 ②数字カードと同じ数のタイルが置いてある呈示皿から、タイルを取って、呈示紙に左から数えながら置く。 ③数字カードとタイルの数が「同じ」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机上を見ない時は「見て」と言う。見たら「見てるね」と言う。 ・試行毎にほめる。 ※以上は全ての試行において留意する。 ・1試行目は、始めに取るタイルをポインティングして教え、「1から数えて置いてね」と言う。 ・数字カードと同じ数のタイルを置いた直後、「そうだね、それでいいよ」と言って1個のタイルを呈示皿ごと撤去する。

<p>3、タイルに触れないで数え、数えたタイルと同じ数の数字カードを取る。</p>	<p>・課題の数:「3」、「5」、「4」</p> <p>①数字の数系列板を呈示する。</p> <p>②呈示紙にタイルを横一列に並べて呈示する。</p> <p>③タイルにふれないで、一緒に指さしながら数詞を声に出して数える。</p> <p>④タイルの数を言う。</p> <p>⑤1から順番に数えながら、数字の数系列板から数字カードを一緒に取る。</p> <p>⑥数字カードとタイルの数が「同じ」と言う。</p>	<p>・「3」は2試行目行う。</p> <p>1試行目は右手人差し指を援助する。</p> <p>・「タイル」にふれないで数えること、ゆっくり数えることを、伝える。</p> <p>・タイルにふれないで指さすことが難しい時は、右手人差し指を援助してタイルのすぐそばで指を浮かせながら一緒に数える。</p>
<p>4、3までのタイルの数系列板を使って数える。</p>	<p>・2試行行う。</p> <p>1試行目は呈示皿に、必要な数のタイルを呈示する。</p> <p>2試行目は呈示皿に1個余分な数のタイルを呈示する。</p> <p>・1試行目、2試行目の方法は以下の通り。</p> <p>①タイルの数系列板を呈示する。</p> <p>②呈示皿を呈示する。</p> <p>③左の列のマス目を指さして、マス目に対応するタイルの数を言う。</p> <p>④呈示皿にタイルを呈示する。</p> <p>⑤タイルの数系列板の左の列のマス目(「1」のマス目)に 呈示皿から、数えながら1個タイルを置く。 ※上記③④は以下の⑥⑦の前に同様に行う。</p> <p>⑥タイルの数系列板の真ん中の列のマス目に、呈示皿からタイルを取り、数えながら下から2個タイルを置く。</p> <p>⑦タイルの数系列板の右の列のマス目に、呈示皿からタイルを取り、数えながら下から3個タイルを置く。</p> <p>⑧タイルの数系列板に置いたタイルを数える。</p>	<p>・タイルの数系列板の指さしは、援助しながら一緒に行う。</p> <p>・タイルを数えながら置く時は一緒に数える。</p> <p>・2試行目では対応するタイルを置いた直後に、「そうだね、それでいいよ」と言って1個のタイルを呈示皿ごと撤去する。</p>
<p>5、たしかめ板を用いる「同じ」の学習</p>	<p>・1試行目は「2」、2試行目は「3」、3試行目は「1」の順番で行う。</p> <p>①たしかめ板を呈示する。</p> <p>②たしかめ板の左側のマス目に見本のタイルを置く。</p> <p>③呈示皿に見本と同じ数のタイルを呈示する。</p> <p>④呈示皿からタイルを取り、たしかめ板の右側のマス目に数えながら下から置く。</p> <p>⑤たしかめ板の左側のタイルと右側のタイルの数が</p>	<p>・たしかめ板の指さしは、援助しながら一緒に行う。</p> <p>・タイルを数えながら置く時は一緒に数える。</p>

	「同じ」と言う。	
6、挨拶	・「終わります」と一緒に言う。	

IV、研究協議

研究授業終了後、研究協議を行いました。特別支援学校の先生方、特別支援学級の先生方の参加がありました。初めに授業者から補足説明をし、その後、質疑応答を行いました。参加された方の質問に理事長の宮城が教材を使用しながら説明を行いました。

1、授業者からの補足説明

- ・文字学習を進めてきた中で、言語指示が分かるようになってきた。また、意思や要求を2語文、3語文で話すことができるようになってきた。
- ・数の学習は、数唱の学習、数字の読み書きの学習から入った。現在は、「数の量概念」の形成が主たる課題になっている。

2、質疑応答

(1) 課題の数について

(質問)

- ・「数字を見てタイルを並べる」課題の数が「5、6、7」で、「タイルに触れないで数え、数えたタイルと同じ数字カードを取る」課題の数が「3、4、5」と、課題の数が異なるのは何故か。

(説明)

- ・数える学習の初めの学習は並んでいるタイルを見ながら、タイルに触れ、指さしながら、数詞を言いながら数えることである。数が大きくなると、「タイルに触れないで数える」課題は見て分かるようになるための前段階の学習であり、「数字を見てタイルを並べる」課題より難しい。従って少ない数になっている。

(2) たしかめ板を用いる「同じ」の学習についての質問

(質問)

- ・たしかめ板を用いて「同じ」にする学習で、左側のマス目(見本)の呈示皿に余分量は出さないのか。
- ・必要量の呈示から余分量の呈示というステップアップの見極めは何で行うのか。

(説明)

- ・左側のマス目(見本)の呈示皿に余分量は出さない。
- ・まず、必要量で学習し、できるようになったら余分量を呈示して学習します。

(質問)

- ・呈示皿の余分量の撤去のタイミングについて

(説明)

ステップ① 呈示皿の余分量に視線が移る前に撤去する。

ステップ② 呈示皿の余分量に視線が向いた時に撤去する。

マス目に置いて同じになった瞬間に「同じになったね」と言う。

ステップ③ マス目に置いて同じになった瞬間に「同じになったね」と言い、1秒待ち、目と手が呈示皿に戻らないことを確認し、ゆっくり撤去する

- ・最後に宮城理事長から数の概念は数えることで形成されるので、数え込む学習が重要であるとの

説明がありました。

- * 10月定例研究会に参加して下さった方々、ありがとうございました。
次回は2019年2月に予定しております。
多くの方の参加をお待ちしています。